

歓迎

こんにちは。古都京都へようこそ！ 私たちは全国の皆さまに、この京都でお会いできることを楽しみにしていました。今回の全訪研は、近畿訪問教育研究会が府県の枠を超えて現地実行委員会を立ち上げ、協力し合い実行させていただくことになりました。

『学校・地域に根ざした訪問教育を進めよう ～一人じゃない！ つながれば見えてくる 明日の一步』を大会テーマに、みなさまと学びあい、交流できれば幸いです。3日間、現地実行委員会一同精一杯頑張りたいと思いますので、みなさまどうぞよろしくお願い致します。



メルパルク京都

『メルパルク京都』はメイン会場で、『JR 京都駅から東へ徒歩1分』と、とてもアクセスのよいホテルです。

1日目・3日目のすべての内容と2日目の第10分科会（特別分科会「保護者とともに」）・保育（わくわくクラブ）・夕食交流会が開催される会場です。全訪研事務局もここにおかれます。



キャンパスプラザ京都

京都市大学のまち
交流センター

『キャンパスプラザ』は、2日目の第10分科会を除くすべての分科会の会場で、『JR 京都駅から西へ徒歩5分』と、アクセスのよい研修施設です。メイン会場の『メルパルク京都』からも徒歩圏内です。

レストラン情報

お食事は、京都駅周辺のレストラン街やコンビニをご利用ください。

各分科会会場に速報用アンケート用紙を置かせていただきますので、ご協力よろしくお願いします。

速報 おこしやす

No.2

2015. 7. 29 (水)
現地実行委員会

開会行事

高木 尚 全訪研会長挨拶

近畿としてのブロック開催。これが今後の形になっていくのではありませんでしょうか。近訪研の仲間みなさまにお礼申し上げます。第7次の全国調査に基づく「提言案」の検討も合わせてお願いします。



渡辺 実 大会実行委員長挨拶

全訪研立ち上げから30年、このような大きな研究会となったことを嬉しく思います。命と対話する子どもたちの一日一日はどんなに大切なことでしょう。

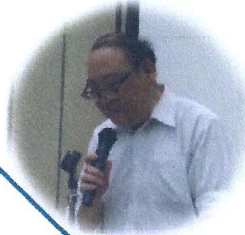
来賓挨拶

京都府教育庁 立久井 聡 様

支援教育を取り巻く国の大きな動きがあります。全訪研のご発展に期待しています。

京都市教育委員会 中原 浩二 様

全訪研のたゆまぬ努力に敬意を表します。研究会が子どもたちの教育に資することと思います。



来賓挨拶

親の会代表 福田 智佳子 様

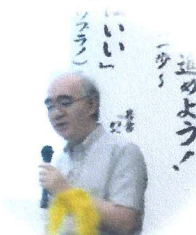
以前、息子を持って京都旅行に行きました。いろいろなトラブルの中で、多くの人々に支えられました。「幸せはその人の心の中にある」のです。この3日間の学びが有意義でありますように。



基調報告

基調報告 木下 博美 副会長

第7次全国調査結果等も含め、訪問教育を取り巻く現状について話します。さて、「訪問生に〇〇はない。」〇〇には、何が入るでしょう。修学旅行、宿泊学習、学校による医療的ケア、スクールバス乗車・・・など、地域によって様々です。



大会記念講演

青野 浩美さん (ソプラノ歌手)

「前例がなければつくればいい」
23歳で突然車いす生活、そして気管切開も。そんな辛い経験を関西弁で笑いも交えながら気さくにお話してくださいました。自身の障がいと向き合い、闘い続ける歌姫が、歌い、語り、会場を感動の渦に巻き込みました。



開催地からの報告

近畿2府4県で構成される「近訪研」から様々な取り組みや特色を発信しました。報告者それぞれの日頃の楽しく充実した教育活動事例や思いを熱く語りました。時間がとても足りなかったようです。



実行委員会からのお知らせ：3日目ワークショップF（スイッチの製作）の開始時刻が「9：00～」に変更されていますので、ご注意ください。

アンケートより 初日の感想

開会行事

親の会の福田さんのお話は毎回笑いあり涙あり、うーんと考えさせられることありでとてもよいお話しです。(静岡)

大会挨拶では京都市の特別支援学校の歴史と現状を再認識することができ、また保護者の方のお話は親御さんの目線ならではのお話しに胸が打たれました。(京都)

基調報告

運営上どうしても時間に限りがありますが、もっとききたいお話しが多かったです。交流会の時にお話しできるといいな(鹿児島)

基調報告では端的に課題がまとめられていて、訪問教育をこのように全国的な視点でまとめられたものはあるようではなかったと思うのですごく学びになりました。(京都)

開催地からの報告

近くの都道府県でありながら現状は様々ななと思いました。ですが、みな同じなのは一生懸命に、目の前の子どもに向き合って教育をされているということ。励みになりました。(京都)

各府県の様子がコンパクトにわかってよかった。スクーリングの交通費、就学奨励費の対象じゃないの？国の制度だから全国同じだと思っていた。自転車の訪問は大変！私のところは田舎なので車じゃないと無理です。(静岡)

大会記念講演

青野さんのお話、命のこと、子どもたちのこと、家族のこと、自分のこと…いろんなことを頭に浮かべながら聞いていました。何度も目が涙でいっぱいになりました。とても素敵な方と出会えてうれしい気持ちです。本当にありがとうございました。(奈良)

青野さんの話にぐっと引き込まれてしまいました。(奈良)

「前例が…」というテーマは今の教育制度の現状に対する課題と同調するものです。新規の試みを保守的に拒否する教育現場は元々創造的活動である教育活動の意識的障壁となっています。(略) 青野さんの生き様は教育者が学ぶべき姿だと思いました。(愛知)

前例は自分で作るということ、簡単なようで難しい。青野さんはあっぱれです。力をもらいました。(静岡)

青野さんの講演、とっても良かったです。うちの学校に来てほしい！！です。(とっても遠いですが…) (青森)

二日目の様子 Part 1

各分科会では、レポートをもとに
活発な協議がされました。

分科会①

「健康・身体づくり1」

レポートは、大阪市からの1本。訪問療法士との合同授業の事例報告です。いつもは二人の授業でも、合同授業の日はお母さんの参観日になります。わいわいと楽しいひと時を過ごします。



分科会②

「健康・身体づくり2」

実技講座がありました。体を動かすには、動点と支点が必ず必要です。それらを理解した上で支点の方に体重を移動させることがポイントです。など、わかりやすく実技指導してくださいました。



分科会③

「コミュニケーション1」

（AACを用いたコミュニケーション）

レポートは、和歌山からの1本です。タブレット端末で高等部の訪問生と通学生がつながる、という事例報告でした。体調等の理由でスクリーニングできない子どもにとっての集団保障は重要課題です。



分科会④

「コミュニケーション2」

（重症児のコミュニケーション）

レポートは、和歌山・奈良・東京からの3本です。「手の活動」を本人に見せることは大切です。また、日々のやり取りの中で、声掛けにより緊張が緩み、関節の可動域が広がることがあります。「気持ちが障がいを超える」ということがあるのですね。



分科会⑤

「あそび・文化と授業づくり」

（重症児のコミュニケーション）

レポートは、京都・和歌山からの3本です。「さくら版 オズのまほうのもり」を単元とした学習を夏休みの合同スクリーニングで行った事例報告でした。



分科会⑥「地域での生活支援と教育」

－医療・教育・生活

地域で障がい児の支援をしている、コーディネーター・NPO法人からの2本のレポートでした。子どもたちの教育と生活を豊かにする地域支援のネットワークづくりが大切です。



二日目の様子 Part 2

分科会⑦「施設内の教育」(午前)

レポートは、福岡・大阪・佐賀・兵庫からの4本です。60歳代の学齢超過者（過年度生）の事例や、大阪の施設内訪問教育の事例報告がありました。



分科会⑨「教育課程」(午後) (スクーリング・行事・教育条件等)

レポートは、京都からの3本です。京都市からは支援学校の中学部・高等部から大学に進学した生徒の事例報告でした。準ずる教育課程で、9教科に対応した指導体制を作ることの苦労や熱い思いをお話の中からひしひしと感ずることができました。



ハンドマッサージ(ボランティアさん)

長先生の感想「普段子ども達をさわっているけれど、きちんとした触り方を勉強しないといけないなあ—と思いました。」



分科会⑧「病気療養児の教育」(午前)

レポートは、愛媛大学榎木先生からの発表でした。病弱者への合理的配慮ができる教員養成について報告されました。病弱・身体虚弱の人にとってのインクルーシブ教育システムにおける合理的配慮とは何か、など最新の支援教育事情についての学びができました。



分科会⑩ 特別分科会(午後) 「保護者とともに学ぶ」

レポートは、愛媛県重症心身障害児(者)を守る会会長、岩井さんからです。最初に訪問生で亡くなられた方の黙とうから始まりました。保護者・教員・元教員等さまざまな立場の方が語り合いました。



わくわくクラブ(保育)

二日目の保育は、外出組は京都市水族館、会場組は工作・音楽タイムなどを行いました。京都水族館に行かれた先生より、「水族館は夏休みで館内、人がいっぱいですが、みんな楽しんでいます。イルカショーの向こうに新幹線が見えるのは京都ならではですかね。」

